

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 11年4月 ～震災の影響で輸出が大きく落ち込み、貿易赤字に

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎  
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

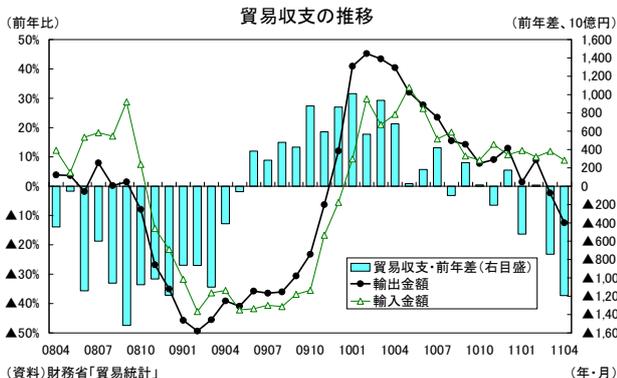
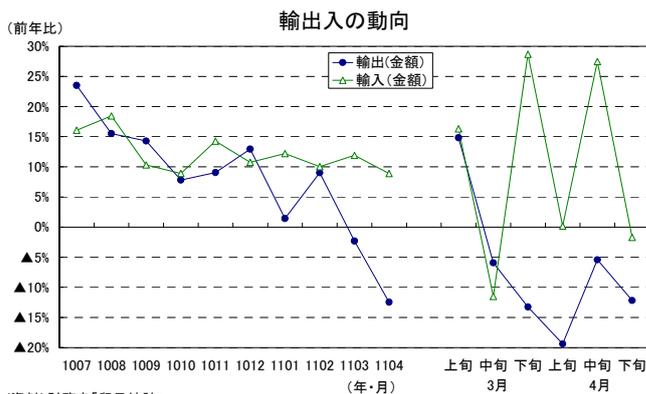
### 1. 震災の影響で貿易赤字に転落

財務省が5月25日に公表した貿易統計によると、4月の貿易収支は▲4,637億円の赤字となったが、事前の市場予想（共同通信集計：▲6,870億円、当社予想は▲4,886億円）に比べれば赤字幅は小さかった。震災に伴う国内生産の落ち込みを背景に輸出が前年比▲12.5%（3月：同▲2.3%）と大幅に減少する一方、原油高の影響などから輸入が前年比8.9%（3月：同11.9%）と高い伸びを維持したため、貿易収支は3ヵ月ぶりの赤字となった。

4月の輸出入を旬別に分けると、輸出は上旬：前年比▲19.4%→中旬：同▲5.4%→下旬：同▲12.2%、輸入は上旬：前年比0.2%、中旬：同27.2%、下旬：同▲1.7%となった。

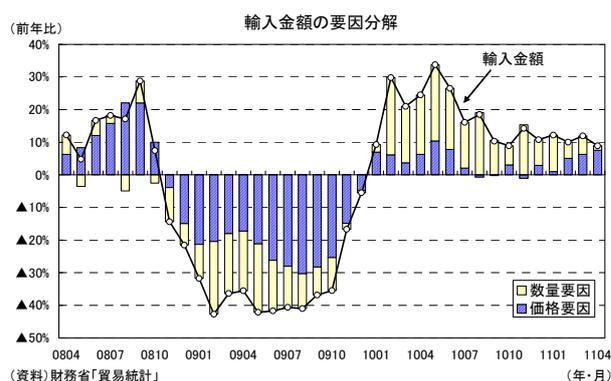
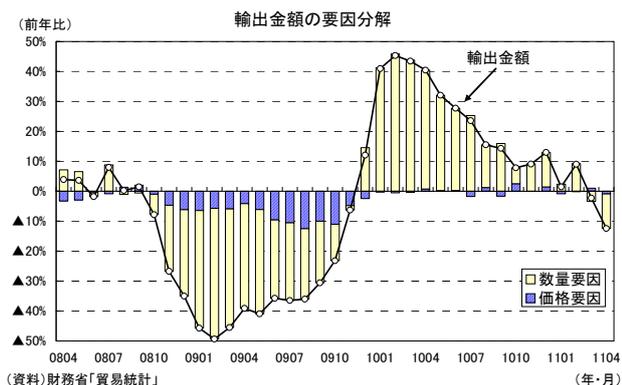
今年の4月は上旬、下旬は平日（営業日）が昨年よりも1日少なく、中旬は昨年よりも1日多かった。この点を考慮すると、輸出は4月中を通してほぼ同じペースで落ち込んだことになり、サプライチェーン寸断による国内生産急減の影響が続いていることを示すものとなっている。

なお、貿易収支を旬別に見ると、4月中旬までの赤字から4月下旬には黒字に転換しているが、これは輸出よりも輸入のほうが営業日数の影響をより強く受けることによるものと考えられるため、貿易収支が基調として黒字に転換したと考えるのは早計である。



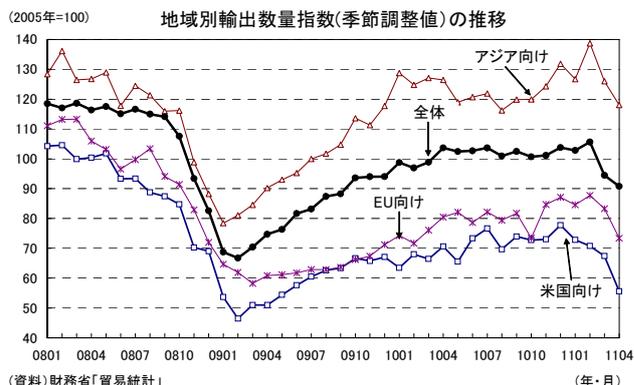
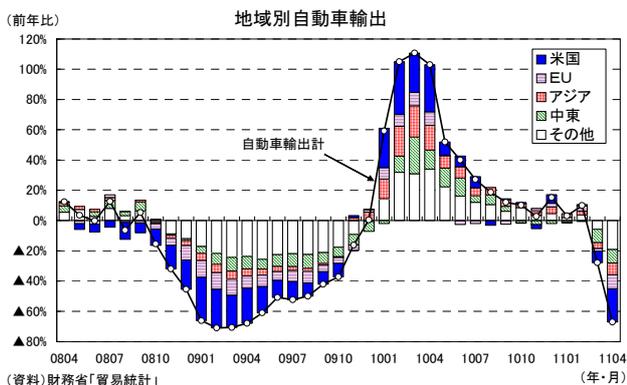
季節調整済の貿易収支は▲4,964億円（3月は14億円の黒字）となり、リーマン・ショック後の09年3月以来の赤字となった。輸出が前月比▲5.5%（3月：同▲8.3%）と2ヵ月連続で減少する一方、輸入は前月比3.8%（3月：同▲1.3%）と3ヵ月ぶりに増加した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲11.6%（3月：同▲3.3%）、輸出価格が前年比▲1.0%（3月：同1.0%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比1.3%（3月：同5.5%）、輸入価格が前年比7.5%（3月：同6.1%）であった。



## 2. 自動車輸出が急減

自動車輸出は前年比▲67.0%（数量ベースでは前年比▲55.6%）となり、3月の同▲27.8%から減少幅が急拡大した。米国向け（3月：前年比▲27.2%→4月：同▲73.5%）、EU向け（3月：前年比▲17.4%→4月：同▲69.9%）、アジア向け（3月：前年比▲23.4%→4月：同▲51.5%）となり、いずれの地域向けも前年の半分以下の水準にまで落ち込んだ。3月の自動車（船舶・鉄道車両を除く輸送機械）の国内生産台数は前年比▲51.1%となったが、これがそのまま輸出の減少につながっている。



4月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲21.2%（3月：同0.9%）、EU向けが前年比▲8.5%（3月：同8.4%）、アジア向けが前年比▲6.3%（3月：同▲1.1%）であった。季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲17.5%（3月：同▲4.7%）、EU向けが

同▲11.9%（3月：同▲5.1%）、アジア向けが同▲6.3%（3月：同▲9.2%）、全体では同▲3.9%（3月：同▲10.5%）となった。季節調整値で見た全体の減少ペースは3月よりも緩やかとなったが、4月の水準は1-3月期よりも▲10.1%も低くなっている。

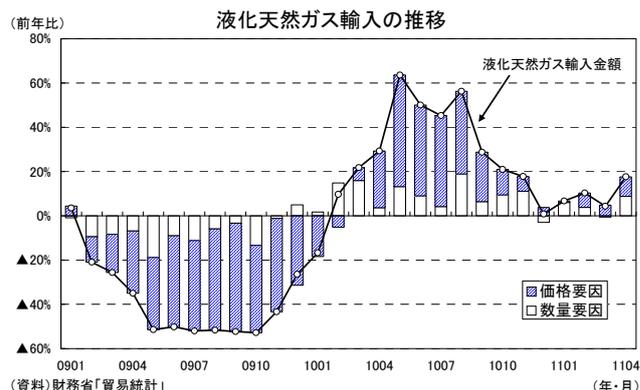
1-3月期のGDP統計の輸出（財・サービス）は前期比0.7%とかなり増加を確保したが、4-6月期は大幅な減少が避けられないだろう。

一方、輸入数量指数（季節調整値）は前月比0.3%とほぼ横ばいとなった。

鉱工業生産は3月に急速に落ち込んだ後、4月は前月比で増加に転じることが見込まれている。これに伴い輸出も5月以降は徐々に持ち直しに向かうことが予想されるが、国内生産の正常化は夏場以降となる可能性が高いことに加え、放射能汚染の問題によって日本からの輸入を敬遠する動きも出てきていることもあり、輸出が元の水準に戻るまでには時間を要するだろう。

一方、輸入は資源高を背景とした輸入価格の上昇、国内生産の落ち込みを補うための代替輸入、復興需要のための資材調達、火力発電所の再開、増強に伴う鉱物性燃料（原油、液化天然ガス等）の需要増などから、増加基調が続くことが見込まれる。

貿易収支の赤字幅は、輸出の持ち直しに伴い徐々に縮小に向かうことが予想されるが、貿易収支が黒字に戻るのは秋以降となるだろう。



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。